報　告

ギリシアの出版事情

山口　喜雄

はじめに

ギリシアから送られてくる出版社カタログと書評誌の新・近刊案内に目を通しながら筆者が手探りで書籍輸入業を始めて16年目になる。とは言ってもその内容は先人から引き継ぐべきものもない、謂わば零から出発しての時間的経過年数に過ぎない。あまつさえサラリーマン稼業かたわらの9年間は自分自身の語学力の向上とギリシア文化史を理解することが優先したからである。

ギリシア文化への多様な関心からギリシア統計集 ΣΤΑΤΙΣΤΙΚΗ ΕΠΕΤΗΡΙΣ ΤΗΣ ΕΛΛΑΔΑΣ を時々繰ってみたが、出版物については新聞の地域別発行部数くらいで書籍や出版社に関する数字は見出せなかった。1990年ギリシアで出版社リスト ΕΚΔΟΤΙΚΟΙ ΟΙΚΟΙ や、書籍年鑑 ΕΛΛΗΝΙΚΑ ΒΙΒΛΙΑ με Αριθμούς ISBN のほか、第4回ギリシア語文学研究会で参考資料として会員諸氏に配布できたアテネ大学図書館案内などの資料集・アッティカ県専門図書館ガイド ΟΔΗΓΟΣ ΕΙΔΙΚΩΝ ΒΙΒΛΙΟΘΗΚΩΝ ΑΤΤΙΚΗΣ を入手できたものの、当時もまだ求める資料に出会えぬままであった。一昨年からようやく大学・官庁出版物を除く民間書籍出版統計集 ΣΤΑΤΙΣΤΙΚΕΣ ΤΗΣ ΒΙΒΛΙΟΠΑΡΑΓΩΓΗΣ(Ιχνευτής) を入手することができた。これらには1990年から7年間の対比数字が列記されているので最近の出版事情を知り得た。本稿では主として最新の1996年版を用い、今日のギリシアの出版社と出版物に関する基礎的情報を伝え、以って筆者積年の課題を果たしたいと思う。

出版社数と出版点数の推移

書籍出版統計による出版社数は1990年＝374社、1991年＝390社、1992年＝436社、1993年＝500社、1994年＝496社、1995年＝524社と漸増している。これはギリシア国民経済の発展に見合ったものと思われる。1996年には490社と

若干減少しているが、次に見る出版点数の順調な伸びからして年間 1・2 点しか出版していない零細（そのいくつかは著者）出版社数が全体の半数以上を占める出版界の常識を覆えすほどの現象ではない。1990 年 2870 点にすぎなかった出版点数は 94 年 4234 点、1995 年 4851 点に、そして 1996 年には 5058 点と順調に伸びている。

次に 1996 年の出版点数を階層別にみた出版社数を示すと、年間 10 点以上が 133 社で 4008 点と全体の約 8 割を占めており、以下 4～9 点が 117 社で 679 点を、2～3 点が 91 社で 222 点を、わずかに 1 点しか出せなかった個人出版社が実に 149 社にも達している。

さらに出版社数を地域的分布でみると大アテネ地区に 412 社と出版社総数 490 社の 84%を占め総点数 5058 の実に 9 割に相当する 4594 点を出版している。そしてギリシア第 2 の都市であるテサロニキ市には 54 社で 406 点、ヨアニナ・パトラ・イラクリオンを含むその他の地域を合わせても 24 社の 58 点にすぎないことは人口分布比以上の首都集中率が伺える。

また出版社について読者の興味を引くと思われるメジャー10 社を 1996 年の資料から列挙してみよう。1990～1996 の 7 年間と 1996 年のみでの順位も併せて見ると次のようになる。

ベストテンの第 1 位は文学書の出版が際立つカスタニヨティス社の 1103 点、第 2 位は一般教養書を数多く出しているパタキス社の 982 点である。1996 年に限ると 308 点でカスタニヨティス社の 274 点を上回って第 1 位となっている。第 3 位は法律専門出版社のサクラス社で 895 点、1996 年も 170 点で第 3 位を維持している。第 4 位は文学書とりわけ外国文学の出版が目立つリヴァニス社で 733 点、1996 年も 144 点と第 3 位を保っている。第 5 位には科学・技術書を得意とするイオン社で 490 点、1996 年のみも 102 点で第 6 位と安定している。第 6 位は 1996 年に 54 点で 13 位だった歴史書・古典学のカクトス社で 7 年間では 464 点を出している。第 7 位は現代ギリシャ文学書とりわけその外国への普及に熱心なケドロス社で 7 年間の実績は 464 点、1996 年のみも 101 点と 7 位の座を確保している。第 8 位と第 9 位はともに人文科学啓蒙書のグーテンベルグ社とパパジシス社で 7 年間の実績がそれぞれ 362 点、354 点であるが、1996 年に限って言うならば後者は 52 点で 14 位、前者は 45 点で 21 位と順位を下げている。最後にユニークな人文系の図書を出すドドニ社が 339 点で第 10 位にその名を連ねているが、1996 年のみで見ると 44 点で 23 位と後退している。代わって 1996 年に驚異的な躍進を遂げているのが教育系のエリニカグラマタ社で 114 点を出

して第5位に入っている。また1988年の出版社年鑑に未だ登録されていなかったサヴァラス社（児童書一般）が1995年に52点で16位から1996年には83点で8位に、1995年に21点で55位だったスミルニヨタキス社（学校教育）が1996年に81点で9位に、同じく児童図書の多いミノアス社が61点で10位に入ってきている。児童書・学習参考書の伸びをさらに詳しく見ていくと、1990年に374点だった児童書は1994年＝517点、1995年＝680点に、学習参考書も1992年＝136点、1993年＝248点、1994年＝337点、1995年には343点と1990年の実に3倍強に達している。この現象を政府の教育重視政策の現われと見ればギリシアの国力の未来は明るいと言うべきであろう。

出版点数の分野別一覧

次にギリシアではどういう分野の本がどのくらい出版されているのかを表にしてみる。年毎の数字は拾えないので分野別点数の増減を1990年と1996年とで比較しながら作成した。

分野	1990	1996	分野	1990	1996
児童書	374	687	哲学	61	61
外国文学（散文）	313	569	言語	19	57
文学（散文）	235	384	社会	33	51
歴史	131	332	紀行	23	45
学習参考書	94	330	音楽	57	39
技術・工学	129	292	コミック	30	31
法律	90	279	スポーツ	24	29
総記	96	264	外国文学（詩）	22	25
文学（詩）	225	220	映画	26	24
医学	50	144	生活	39	24
宗教・神学	108	141	民俗・民族	21	22
経済・経営	92	128	環境問題	5	15
政治・外交	85	118	統計	8	15
文学史・評論	127	113	マスメディア	7	14
古典文学	13	107	ビザンティン	0	10
美術	53	105	オカルト	54	9
教育	44	106	ラテン語	4	9
心理	37	99	ダンス	4	1
数学・自然学	74	98	合計	2870	5058
演劇	63	61			

全出版点数に占める翻訳書の比率とその国別・分野別内訳

次に出版物全体に占める翻訳書の比率であるが、1990 年には全出版点数 2880 点の内 998 点で 35%、さらに 6 年後の 1996 年でも 5058 点中 1846 点で 36%と殆ど変わらず、その比率はかなり高いと言うべきであろう。

最後に、翻訳書の点数を国別順位で示し、且つギリシアがその国に求めている文化域を科学書・文学書・児童書の大枠で示して見よう。ここでは 1996 年の数字のみを用いることにする。なお日本の順位と数字が重要なので順位をベスト・イレブンまでとする。

順位	国名	総点数	科学	文学	児童書
1	アメリカ	600	328	212	60
2	イギリス	477	159	124	194
3	フランス	309	131	115	63
4	ドイツ	120	71	27	22
5	イタリア	89	34	29	26
6	スペイン	41	14	13	14
7	ベルギー	35	10	4	21
8	ロシア	33	11	22	0
9	オーストリア	11	3	7	1
10	オーストラリア	9	9	0	0
11	日本	8	0	8	0
11	アイルランド	8	0	8	0
	その他	106	26	68	12
	合計	**1846**	**796**	**637**	**413**

1996 年の日本文学の翻訳書はすべて現代文学で、大江健三郎 (2)、三島由紀夫 (2)、川端康成 (1)、遠藤周作 (1)、吉本ばなな (2)であったと記憶する。

以上、ギリシアの民間書籍出版統計 ΣΤΑΤΙΣΤΙΚΕΣ ΤΗΣ ΒΙΒΛΙΟΠΑΡΑΓΩΓΗΣ から最も基本的と思える項目のみを選んでようやく纏めてみることができた。

これを以って筆者の役割分担の一端を果せたことを多とされたい。